

水谷 宝清寺



境内には毎年沢山の花が咲きます。六十一号より宝清寺に咲く花々を紹介しています。

新年あけましておめでとーう

本年もよろしくお願ひ致します

昨年、たちばな新聞六〇号で「お塔婆供養の功德」、六十一号で「法事について」の記事を掲載したところ、「法事を修することは、故人のためではなく、お塔婆を建ててもらうことは、来世の故人に対する現世の人々の想いと感謝の心の結びつきが遺族の心の癒えだ。」という事をお盆やお彼岸だけでなく法事の際にお塔婆をあげる方も多くなりました。

日蓮聖人遺訓十一

「漆に塗って黒ければ白くなることなし。此よりうつりやすきは人の心なり。善悪にそめられ候」
(西山殿御返事)

昨年、通夜の会食の席で、突然、父親を亡くした二人の娘さんから、「死んだ父親は今どこにいるのですかと質問されました。」また、法事の打ち合わせの時、時々、母親の一周忌と父親の十三回忌が一月違いであり、親戚の方に負担を掛けたくないのと、同じ日に一緒に法事を行っても良いでしょうかとの相談があります。檀家の皆様の共通の疑問にお答えする記事をQ&Aの形式で時折掲載していきたいと思ひます。

Q&Aのコーナー

Q「人は死んだらどこへ行くのですか。」
A「人間が死んだからの四十九日間は「中陰」と言います。「中陰」は「中有」とも呼びます。教典によると、この世に生まれた瞬間を「正有」、生きていた瞬間を「本有」、死の瞬間を「死有」と呼び、次の世に生まれるまでの期間(四十九日間)を「中陰」と呼んでいます。

最近、家庭や親族間において、憎しみによる犯罪が増えている。昔読んだ、三木の「人生論ノート」の「怒りについて」の文を思い出した。怒りと憎しみは連うという内容である。その一節を紹介すると、『愛の神は人間を人間的にした。それが愛の意味である。しかるに世界が人間的に、余りに人間的になったとき必要なのは怒りであり神の怒りを知ることである。今日、愛については誰も語っていない。誰が怒りについて真剣に語ろうとするのであるか。怒りの意味を忘れてただ愛についてのみ語るということは今日の人間が無性格であることのしるしである。今日、怒りの倫理的意味は多く忘れられているものはない。怒りはただ避くべきものであるかのように考えている。しかしながら、もし何者かがあらゆる場合に避くべきであるとすれば、それは憎しみであって怒りではない。(中略)怒りはより深いものである。怒りは憎しみの直接の原因となることができ、すべての怒りは突発的である。そのことは怒りの純粋性かいは単純性を示している。しかるに憎しみは殆どすべて習慣的なものであり、習慣的に永続する憎しみのみが憎しみと考えられるほどである。憎しみの習慣性がその自然性を現わすとすれば、怒りの突発性はその精神性を現している。怒りが突発的なものであるということはその啓示的な深さを語るものでなければならぬ。しかるに憎しみが何か深いものであるのうに見えるときは、それは憎しみが習慣的永続性を持つていて、そのように見えるとすれば、それは憎しみが生まれ殺人事件まで起こしてしまふ。』とある。愛の行き違いから憎しみが生まれ殺人事件まで起こしてしまふ。啓示的な深さをもって「子供」を叱り育てる真の意味での「怒れる人」の存在がなくなつたことに原因があるのかもしれない。そのことは世の全ての事に通じる。

「中陰」の四十九日間は、故人にとつて行き先が決まる大切な期間です。行き先は「六道」即ち、天上・人間・修羅・畜生・餓鬼・地獄のいずれかとされてくるからです。故人には極楽浄土で幸福を得てもらいたいと思うのは生きていた人間の願ひでしょう。そこで、この中陰期間の法要、中陰供養が重要な意味をもつてくるのです。中陰供養は七日ごとに初七日・二七日・三七日・四七日・五七日・六七日・七七日(四十九日)と続きます。中陰供養の最後の法要が四十九日の法要です。四十九日は故人の来世の行き先が決まる日です。四十九日は満中陰・忌み明け・精進明けとも呼び、この日に近親者を招き法要を営みます。現在では初七日法要は葬儀当日済ませてしまうことが多く、五七日(三十五日)か七七日(四十九日)のどちらかに中陰供養を行い納骨埋葬を行っているところが多いようです。満中陰は、それまで喪に服していた遺族が日常生活にもどる日でもあります。中陰棚を片付け、白木の位牌から黒塗りの位牌に替えます。新しい位牌は開眼供養して仏壇に安置します。インドの仏教思想では、死後四十九日とされています。百か日・一周忌・三回忌・・・は中国の教えでそれが日本に定着したものです。百か日の法要は、四十九日で故人が地獄や餓鬼などの悪世界に落ちたとしても、百日目にも審判があるから、さらなる追善供養が必要だとの方からきています。「人は死んだら、六道のいずれかに行く」とされています。「目蓮尊者が餓鬼道に堕ちた母親を追善供養で救つたように、追善供養は大切です。」

宝清寺年中行事

三月	彼岸中日	塔婆供養
四月	月八日	花祭
七月	月十七日	孟蘭盆会供養
七月	月十七日	お施餓鬼法要
九月	月十八日	お塔婆供養
十月	月十八日	お会式法要

日蓮宗の聖日

二月	月十六日	釈尊降誕会
二月	月十八日	釈尊成道会
三月	月二十日	釈尊開降誕会
四月	月二十八日	立教降誕会
五月	月二十八日	伊弉諾尊御入山会
七月	月二十七日	松葉谷法難会
八月	月二十七日	龍ノ口法難会
九月	月二十八日	池上御入山会
九月	月二十八日	宗祖御入山会
十一月	月十一日	小松原法難会

御祈願・御供養

交通安全 繁盛祈願
 通安 盛祈願
 売封 盛祈願
 位祭 祈願
 厄祭 祈願
 産祭 祈願
 開安星除方虫商交

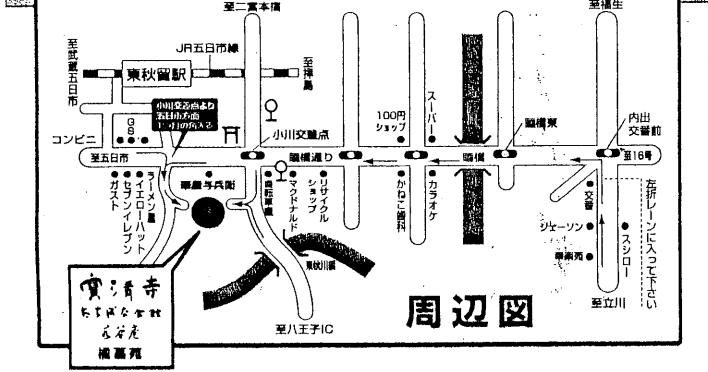
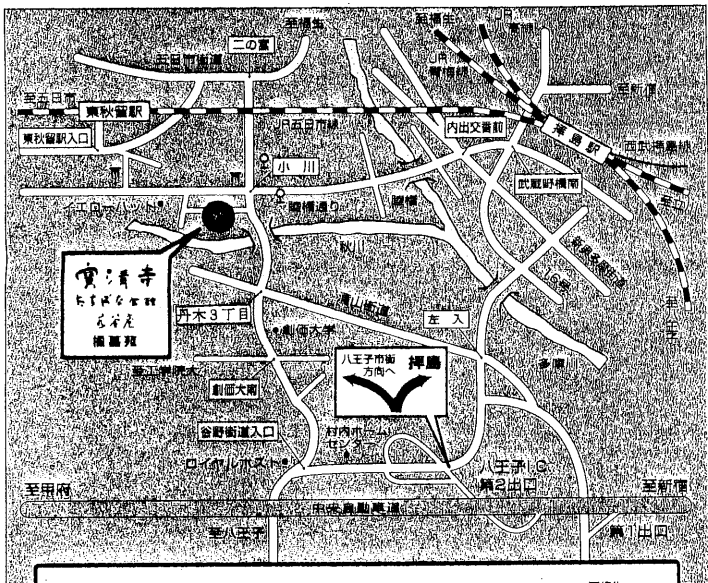
このほかに、諸祈願や自動車
 のほかにも、諸祈願や自動車
 のほかにも、諸祈願や自動車
 のほかにも、諸祈願や自動車

宝清寺の仏さま

今回は、日蓮宗の開祖である日蓮聖人について、その御生涯を簡単に説明します。

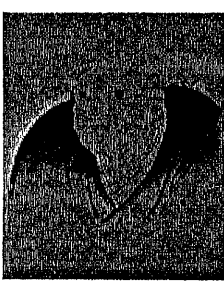
日蓮聖人は貞応元年（一二二二）二月十六日、今から七百八十六年前、現在の千葉県鴨川市小湊で誕生されたと伝えられます。十一歳で清澄寺に登り、十六歳で出家し、蓮長の名を授けられました。その後、比叡山や高野山で勉強し、すべての経典を読みつくしたと云われています。その経典のなかで最も優れているとされ、「法華経」に書かれている教えを広め、実践されて

宝清寺への行きかた



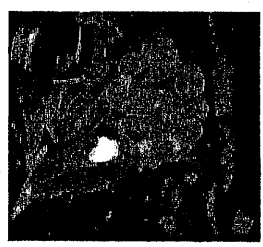
ました。仏様の教えである法華経を実践し、広めることは、大変困難であると経典に書かれておりました。しかし、日蓮聖人は、その困難を乗り越え、正しい教えを広めることに命をかけた。六十一年の生涯を費やしました。

日蓮聖人の命日は旧暦十月十三日です。我々はこの日を「お会式」と呼び、日蓮聖人の徳を殊に讃え、感謝する日（報恩謝徳）としております。



宝清寺の草花

「鶯の笠落としたる椿かな」（芭蕉）ウグイスの木は梅と思いきや、芭蕉は椿がウグイスの笠である、と歌っているところが風変わりでもしるい。宝清寺務所の前にも椿が植えてあります。読んで字のごとく、「椿」とは春の木であり、昔の人は「春」と云われて真っ先に思い浮かべる木が「椿」であったのかも知れませんね。



●交通のご案内●

■バス利用の場合

- 立川バス 二の宮発出 福生駅西口行
- 西東京バス 秋川駅行
- 西東京バス 谷林大行

小川バス停 徒歩2分

■お車利用の場合

- 中央高速道、八王子I.C.から 約15分
- 立川方面から 約15分
- 武蔵村山方面から 約25分
- 羽村方面から 約15分

■電車利用の場合

東秋留 5分 至青梅 至金子

小平 19分

立川 12分

至八王子 至新橋